

【中学校・2年・家庭分野・「生活を豊かにするための布を用いた製作」】

育成を目指す資質・能力

B1（個に応じる学習）

C2（協同での意見整理）

動画を見ながら製作する活動を通して、必要な材料、手順、時間等の見通しを持ち、目的に応じた製作方法やミシン等の用具の安全な取り扱いについて理解し、製作が適切にできるようにする。

ICT活用のポイント

【活用したソフトや機能】 アンケート機能 ビデオ機能 学習支援ソフト

生徒が個々に動画を視聴することで、一人一人の技能やペースに対応でき、手順を確認しながら製作することができる。

学習の流れ

完成品や動画を見て、完成までの見通しをもつ。

自分の技能やペースに合わせて、手順を確認しながら製作する。

角縫いの仕方について動画を見てペアで話し合い、確認させる場面をつくる。

自分の製作の記録をふり振り返り、自己評価を行う。

事例の概要

事前にアンケートをとることによって生徒の実態把握を行い、必要な支援や準備をあらかじめ用意した。学習支援ソフトに製作手順や作り方の詳細な動画を添付し、生徒が個々に必要な場面の動画を視聴することで、一人一人の技能やペースに対応できたり、手順をじっくりと確認したりしながら製作できるようにした。また、製作の記録を写真にして残すことで、自己評価や振り返りを行うことができるようにした。実習の中で必要な場面を繰り返し再生し、わからない部分を自分の力で解決できるという成功体験をさせることで、布を用いた製作への自信をつけさせ、実生活につなげられるように工夫した。

【中学校・2年・家庭分野・「生活を豊かにするための布を用いた製作」】

【事例におけるICT活用の場面①】



【事例におけるICT活用の場面②】



ICT活用のポイント

本題材では、事前に1人1台端末のアンケート機能を活用して、生徒の実態把握を行った。アンケートの結果から必要な支援をあらかじめ準備することができ、生徒の戸惑う場面を減らし、スムーズな実習につなげることができた。また、各自が必要な場面で動画を視聴できることで、わからない時に自分で解決できる生徒が多くなった。そのため、本当に支援が必要な生徒に時間をかけて丁寧に教えられるようになったことも大きな成果だと感じた。

また、物作りの経験が乏しい生徒にとって、紙面よりも動画で作り方を示したほうが、イメージがしやすいと思われる。製作行程の一連の流れを見させ、完成までの見通しを持たせることで失敗を防ぎ、自分でもできるという自信や達成感を感じさせることにつながった。

カメラ機能を活用し、製作途中の作品を記録させておくことで、振り返りの時間に周りの人とアドバイスしあうことができ、主体的な学びになった。また、生徒の作品の写真を残すことで、時間をかけて丁寧に評価することができ、根拠のある評価を行うことができた。それぞれの作品をデータ化して保存しておく、これから学習する生徒への見本として活用できるという利点もある。

端末の持ち帰りができるようになったら、登校が困難な生徒の学習にも活用していきたい。

ICT活用事例 B1（個に応じる学習）C2（協同での意見整理）

中学校2年・家庭分野

「生活を豊かにするための布を用いた製作」



使用機器：1人1台端末 使用アプリ：アンケート機能、ビデオ機能、学習支援ソフト

〈ICT活用のポイント〉

- ① 学習支援ソフトで事前・事後アンケートを実施することにより、生徒の実態を把握することができる。
- ② 学習支援ソフトに動画を添付し、生徒が個々に動画を視聴することで、一人一人の技能やペースに対応でき、手順を確認しながら製作できる。実習の中で必要な場面を何度も繰り返し再生することにより、わからない部分を自分で解決し、基本的な技能を習得することができる。
- ③ 製作の記録を写真として残すことで、自己評価や振り返りを行うことができる。また、教師が生徒の作業進捗を把握することができたり、評価に生かしたりすることができる。

1 題材の目標

動画を見ながら製作する活動を通して、製作に必要な材料、製作手順、時間等の見通しをもち、目的に応じた製作方法やミシン等の用具の安全な取り扱いについて理解し、製作が適切にできるようにする。

2 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・製作する物に適した材料や縫い方について理解していると同時に、用具を安全に取り扱い、製作が適切にできる。	・生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・よりよい生活の実現に向けて、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

3 題材について

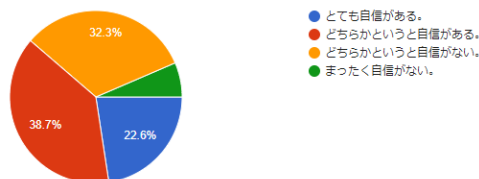
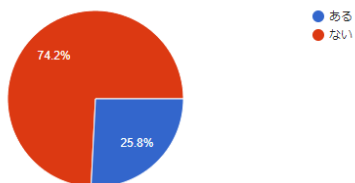
本題材を扱う前に、学習支援ソフトでアンケートを作成し、生徒の実態把握を行った。アンケートの結果から、学校の授業以外でミシンを使って物を製作したことがある生徒は全体の3割に満たず、7割以上の生徒がミシンを授業以外で使ったことがないことがわかった。また、上糸、下糸を正しくつけることができるかの質問には、4割近くの生徒が「全く自信がない」、「どちらかという自信がない」と答えた。ミシンを使って物を製作することについても4割以上の生徒が「全く自信がない」、「どちらかという自信がない」と答えた。その理由として、「授業以外でミシンを使ったことがなく、授業の中でミシンを使っても誰かに助けてもらってばかりであり得意でないから。」

「途中までの手順はわかるけど、最後の方がわからないから。」「違うところを縫ってしまい、やり直すことがあるから。」「器用ではなく、授業でもよく失敗してしまうから。」などが挙げられた。

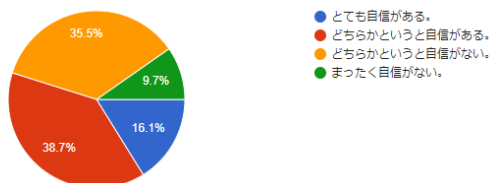
これらの結果から、本題材では、学習支援ソフトに動画を添付し、生徒が個々に動画を視聴することで、一人一人の技能やペースに対応でき、手順を確認しながら製作できるよう工夫した。また、製作の記録を写真にして残すことにより、自己評価や振り返りを行うことができるようにした。実習の中で必要な場面を繰り返し再生し、わからない部分を自分の力で解決できるという成功体験を積み重ねることで、布を用いた製作への自信をつけさせ、実生活につながられるような学習になることを願い、本題材を設定した。

学校の授業以外でミシンを使って物を製作したことがある。

上糸と下糸を正しくつけることができる。



ミシンを使って物を製作することについてあてはまるものを選びなさい。



4 指導と評価の計画（全5時間）

時間	学習内容	評価の観点			指導上の留意点 【評価方法】
		知識・技能	思考・判断・表現	態度	
1	<ul style="list-style-type: none"> ○生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見出し、課題を設定する。 ・自分たちが着ている衣服は、どうやって作られ、古くなったらどうなるのか等の現状を知る。 ・生活を豊かにするための布を用いた物の製作について課題を設定する。 	○	○	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の現状を自分事として考えられるようにする。 ・綿花栽培の問題、Tシャツやワイシャツを作るために必要となるバーチャルウォーター、ラナプラザ崩壊やファストファッションの裏側などに関する資料を見せる。【ワークシート】
2	<ul style="list-style-type: none"> ○生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画について考え、工夫する。 ・小学校の学習を生かし、再利用する布地に適した縫い方や用具の安全な取り扱いについて考え、製作計画を立てる。 ・グループで製作計画を発表し合い、見直す。 	○	◎		<ul style="list-style-type: none"> ・3～4人グループで話し合う。 ・製作に適した布を選ぶこと、裁断時には布の向きを考慮することが大切であることを知らせる。【ワークシート】

3 ・ 4 ※ 本 時	○用具を安全に取り扱い、生活を豊かにするための布を用いた物を製作する。 ・製作計画に沿って製作する。 ・タブレットを活用し、見通しをもちながら製作する。 ・1人1台端末を活用し、作品の過程を記録に残す。 ・製作について振り返り、製作計画・記録表に記入する。	◎		・タブレットの基本操作や使用上の留意点を事前に指導しておく。 ・進度が遅れている生徒には、声かけや示範などを行い、つまづきを解消できるように支援する。 【活動の様子】【作品】
5	○完成した作品を発表し合い、評価・改善することができる。 ・製作を振り返り、製作計画・記録表にまとめる。 ・グループで発表し合う。 ・他の生徒の発表や作品を参考に、自分の製作について評価・改善する。 ・これからの衣生活の中で、不用となった衣服等の再利用について、新たな課題をまとめる。	○	◎	・作品の記録写真を用いながら、発表させる。 ・3～4人グループで良かった点等をアドバイスさせる。 ・資源や環境に配慮した衣生活を送るための工夫を考えさせる。 【ワークシート】

5 ICTの効果的な活用について

本題材では、事前にアンケートをとり、生徒の実態把握を行った。アンケートの結果からあらかじめ必要な支援や準備を用意することができ、生徒の戸惑う場面を減らし、スムーズな実習につなげることができた。また、1人1台端末を用い、一人一人が必要な場面で動画を視聴できることで、わからないときや不安なときなどに、その部分を自分で解決できる生徒が多くなった。そのため、本当に支援が必要な生徒に時間をかけて丁寧に支援をすることができるようになったことも大きな成果だと感じた。

また、ミシンや裁縫用具を日常使う機会が少なく、物作りの経験が乏しい生徒にとって、紙面よりも動画で作り方を示したほうが、イメージがしやすいと思われる。製作前には必ず製作行程の一連の流れを見せて、完成までの見通しを持たせることで、失敗を防ぎ、自分でもできるという自信や達成感を感じさせることにつながった。

カメラ機能を活用し、製作途中の作品を記録させておくことで、振り返りの時間に周りの人とアドバイスしあうことができ、主体的な学びになった。また、生徒の作品を評価する際の材料として写真を残すことで、時間をかけて丁寧に評価をつけることができ、根拠のある評価を行うことができた。それぞれの作品をデータ化して保存しておくことで、これから学習する生徒への見本として活用できるという利点もある。端末の持ち帰りができるようになったら、登校が困難な生徒の学習にも活用していきたい。

【生徒の実態に合わせた動画】



簡単にできるブックカバー...



上糸のかけ方
動画



下糸のつけかた
動画



角縫い
動画

【動画の一部】



【1人1台端末を用いた製作実習の様子】



【生徒の作品】

